

# 第二期兵庫県地創生戦略の 中間見直しに向けた現状・課題

令和4年8月

計画課

<b>1</b>	<b>総人口</b> .....	<b>2</b>
<b>2</b>	<b>社会移動</b> .....	<b>4</b>
<b>3</b>	<b>婚姻・出生</b> .....	<b>10</b>
<b>4</b>	<b>地域の人口動態</b> .....	<b>14</b>
<b>5</b>	<b>GDP成長率</b> .....	<b>16</b>

# 1 総人口

---

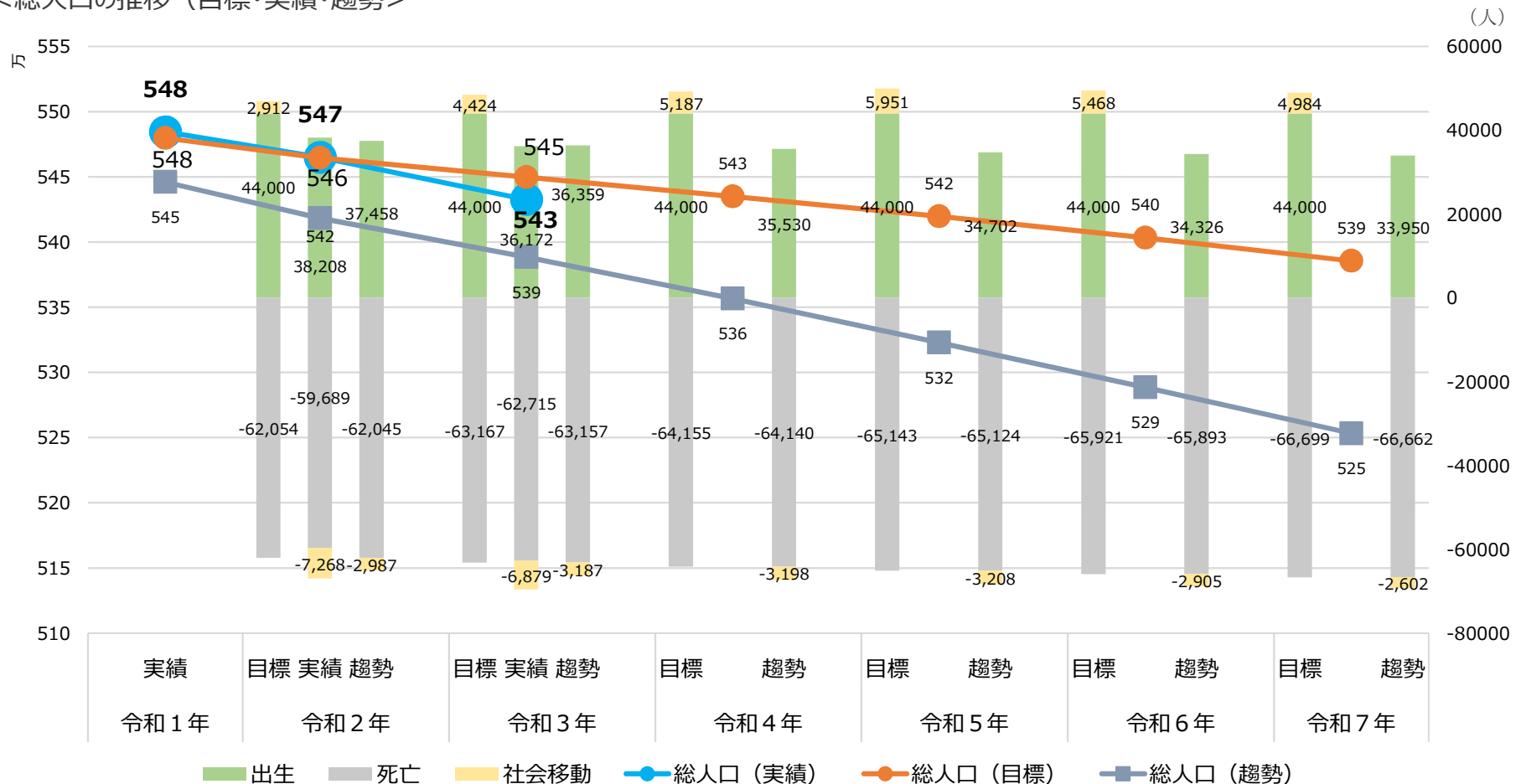
## (1) 総人口は目標値を下回って推移

- 本県の人口は、出生数の減少や若者の県外への転出超過により減少が進行。2021年の推計人口は543万人となり、地域創生戦略の長期人口目標（2060年目標値：450万人）に基づく推計を下回った。
- 人口目標の達成には、出生数の増加や東京圏及び大阪府への転出超過の解消が必要。

# 1-① 総人口の推移（目標・実績・趨勢）

- 令和2年の総人口は、社会減が大幅に拡大したものの死亡数が抑えられたことから、戦略目標を僅かながら上回ったが、令和3年度には戦略目標を約2万人下回っている。
- 令和3年の実績と目標との乖離が大きいものは、出生数（▲7,828人）と社会移動（▲11,303人）

<総人口の推移（目標・実績・趨勢）>



## 2 社会移動

---

### (1) 新卒者の就職に伴う県外転出

- ▶ 大学生の県内就職希望率と県内就職率にギャップ。転出超過の大きな要因に。
- ▶ 特に20歳代女性は大阪府への転出が多く、就職先近隣への移住と見られる。
- ▶ 大学生が就職先を検討する際に重視するのはワークライフバランス（WLB）。

### (2) 30代以降は転入超過に

- ▶ 30代の転入超過は堅調に推移。
- ▶ 転出者の多くは兵庫に戻りたいとの希望。

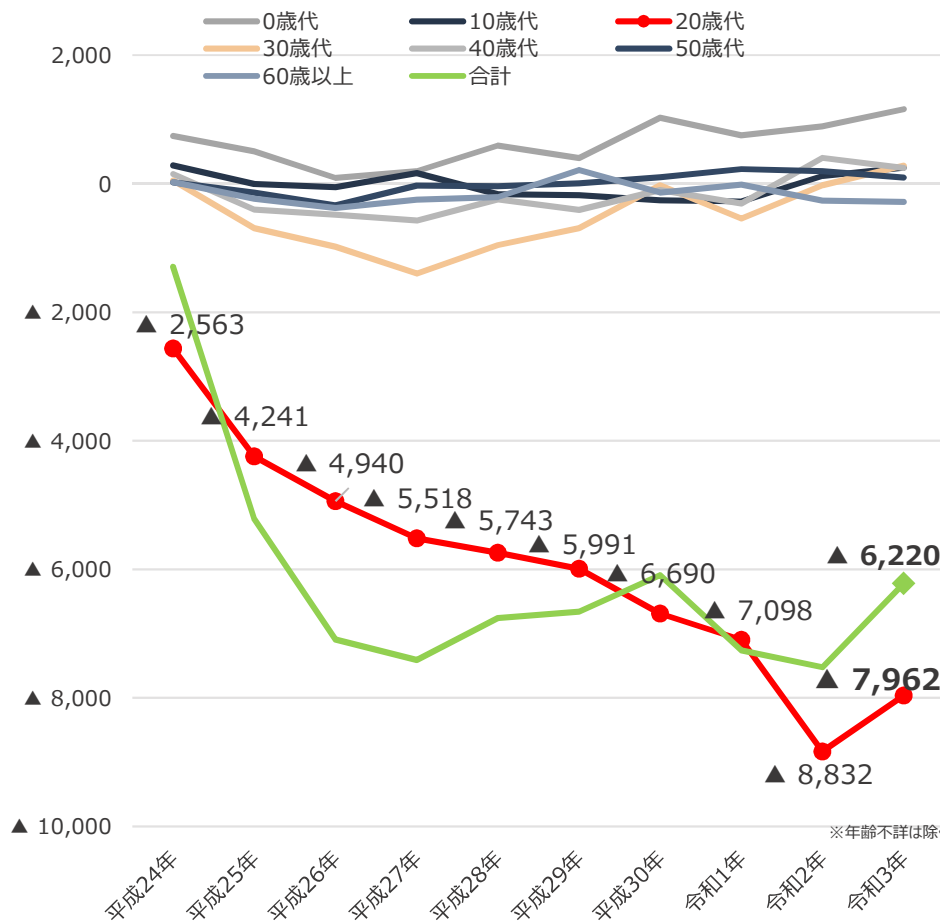
### (3) 外国人県民の増加

- ▶ 外国人の転入は新型コロナウイルスの影響により激減しているが、ビザ発給要件の大幅緩和により、中長期的には増加している。

# 2-①年 年齢別の転入超過数の推移と転出理由

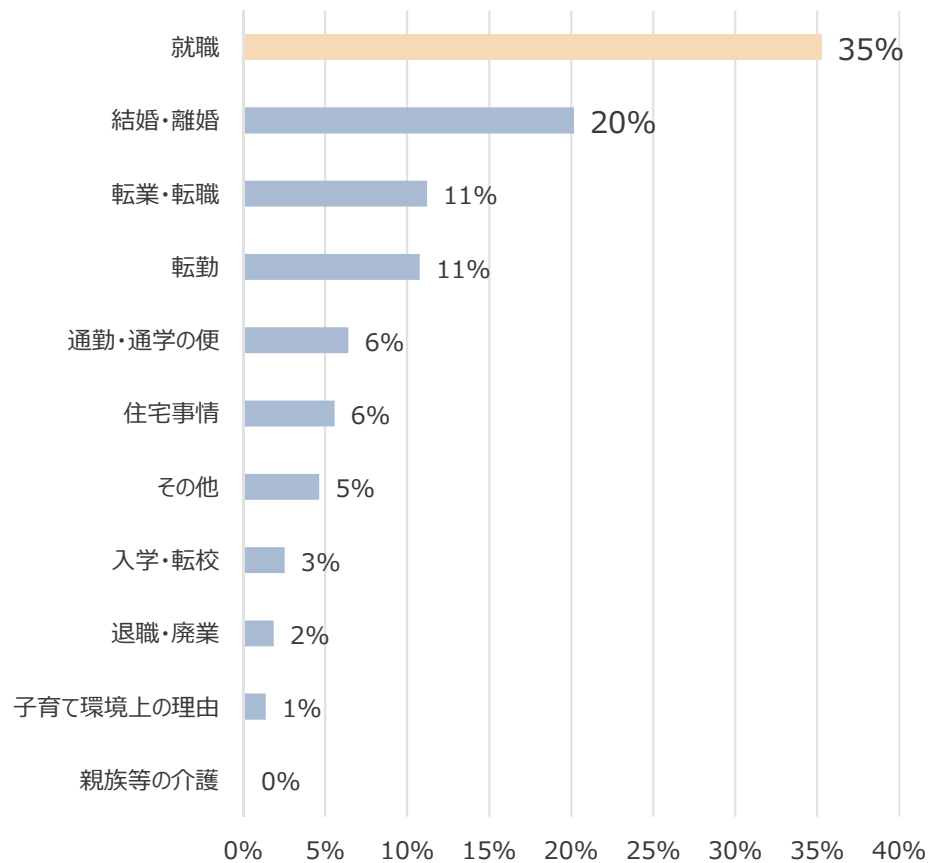
- R6年までに日本人の転出超過解消をめざしていたが、R3年で約6000人の転出超過。
- 20歳代は▲7,962人の転出超過で、転出理由は、「就職」が35%と最も多く、次いで「結婚」が20%。

<年齢別の転入超過数（日本人）の推移>



出典：総務省「住民基本管理台帳移動報告」

<転出の理由（20歳代）>

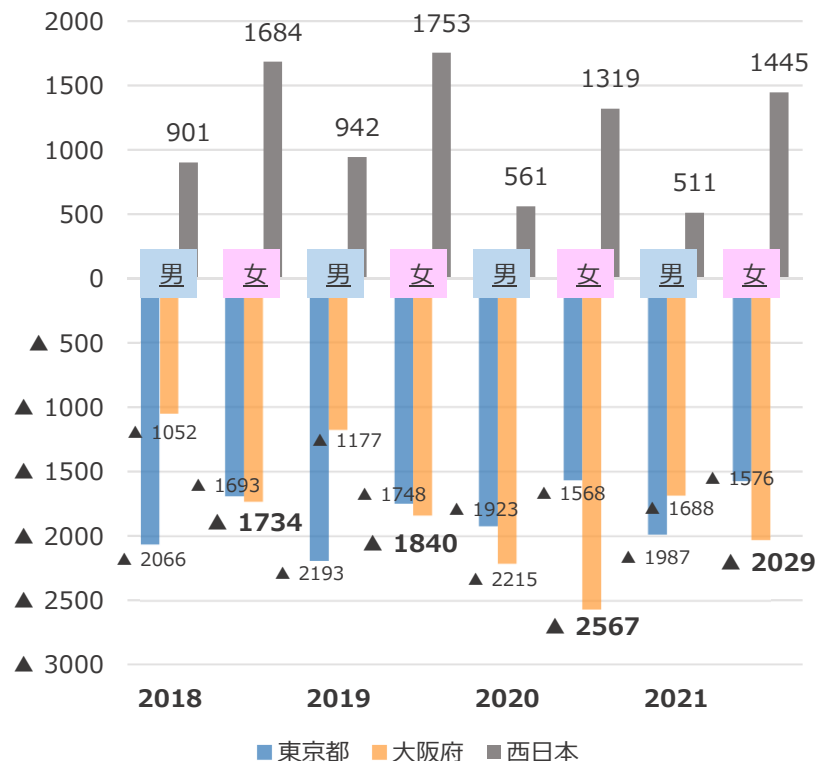


出典：兵庫県地域振興課「R3年度転出者アンケート調査」

## 2-②20歳代男女別の転出先の推移と女性の志望業界

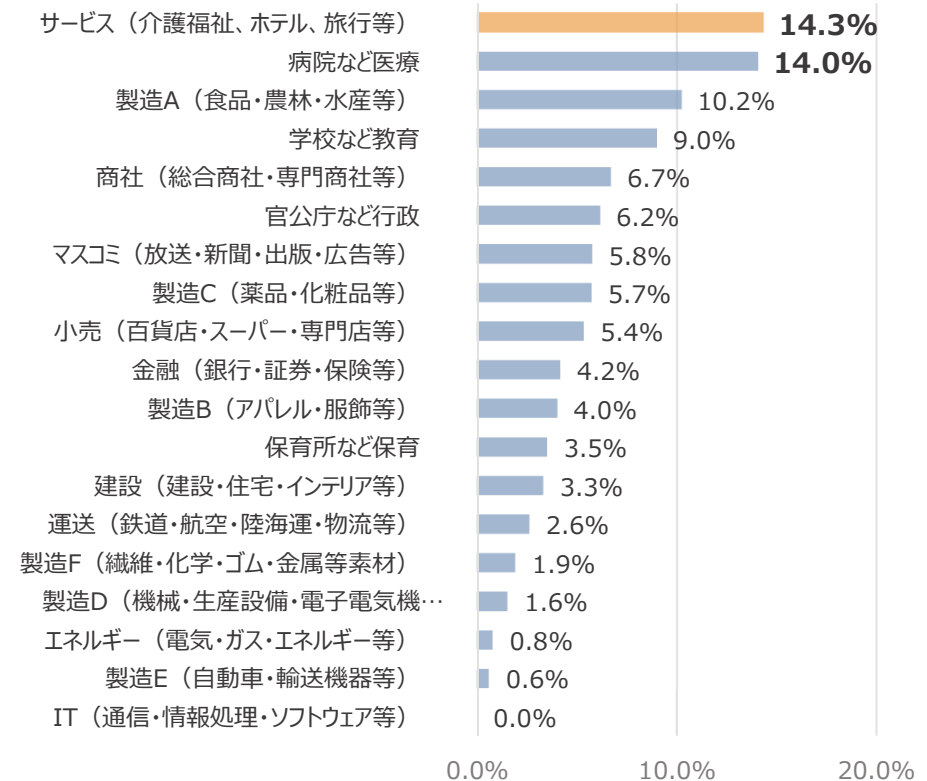
- ▶ 20歳代の男性は東京都への転出超過が多く、女性は大阪府への転出超過が多い。  
西日本（兵庫県より西）からは男女ともに転入超過であり、特に女性が多い。
- ▶ 女子大学生はサービス業（介護福祉、ホテル、旅行等）の志望が14.3%と最も多く、次いで医療業界への志望者が14.0%。

<20歳代男女別地域別転入超過数の推移>



出典：総務省「住民基本管理台帳移動報告」

<女性の志望業界>

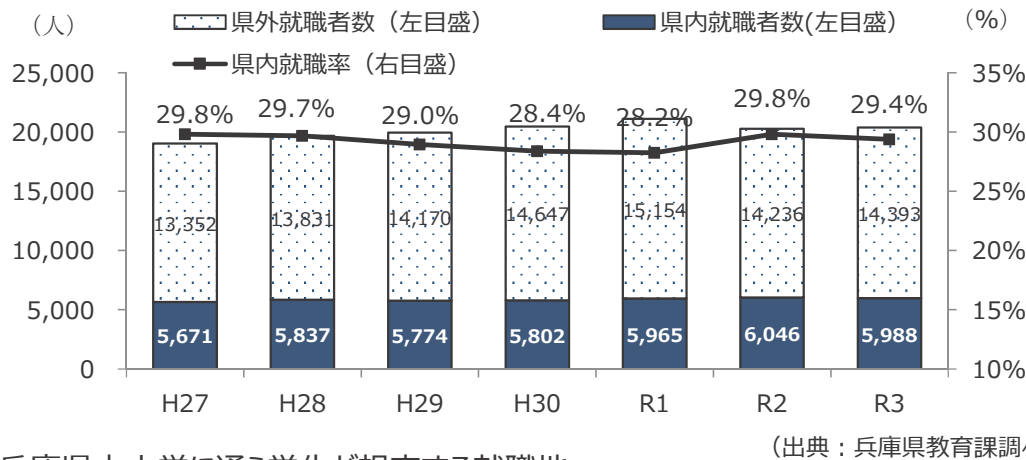


出典：兵庫県計画課「R3年度県内大学生の就職意識等に関するアンケート調査」

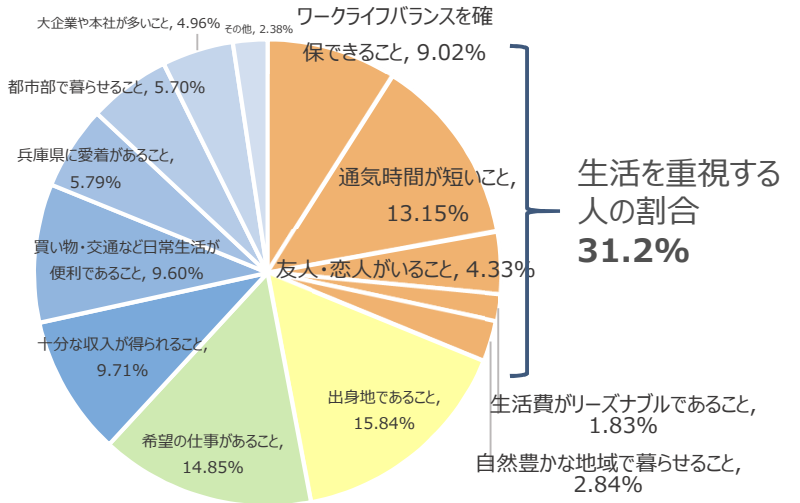
## 2-③ 県内大学卒業者の県内企業就職率と重視する要素

- 県内大学卒業者の総数は県内企業就職率は3割弱、6000人前後で推移。
- 県内大学に通う学生が想定する就職地として、「兵庫県」「兵庫県を含む複数地」と回答した者は、72.8%。県内就職者29.4%とギャップ。
- 県内大学生が就職地を選ぶ際には、ワークライフバランスの確保や通勤時間が短い等、生活面を重視する割合が最も高い。

<県内大学卒業者の県内企業就職率の推移>



<就職地に重視すること>



<兵庫県内大学に通う学生が想定する就職地>

区分	① 主に兵庫県を想定	② 兵庫県を含む複数地を想定	③ 条件が合えば今後兵庫県も検討したい	④ 兵庫県以外を想定	①～④以外	合計
回答数	472	1,008	182	349	22	2,033
割合	23.2%	49.6%	9.0%	17.2%	1.1%	100.0%

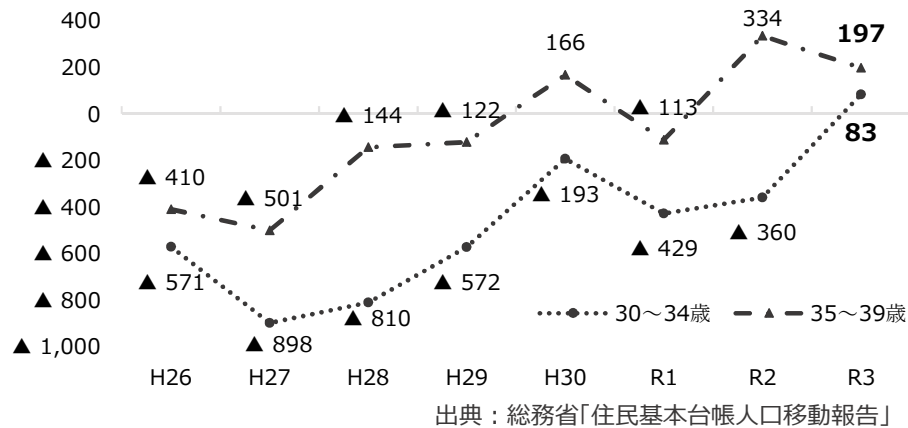
(出典：兵庫県計画課調べ)



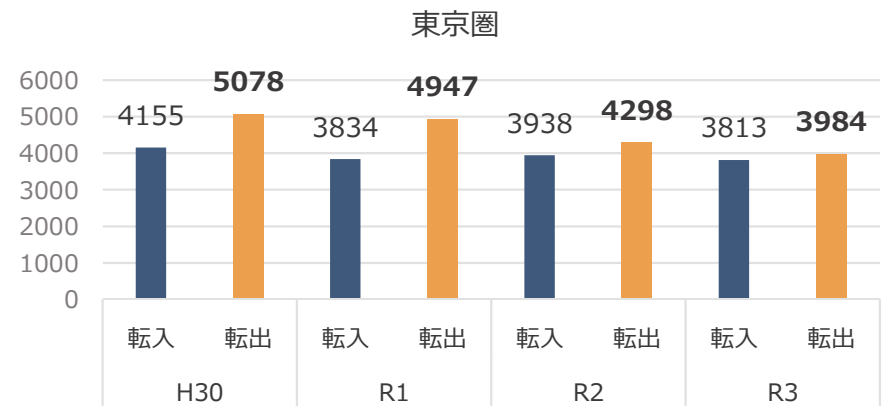
## 2-④ 30歳代の転入超過数の推移

- 子育て世代の30歳代は転出超過傾向が続いていたが、東京圏の転出者数が減少傾向にあり、県全体としてR3は転入超過に転換。
- 兵庫県に戻ってきたいと回答している割合は、60代以上を除き概ね60%を超えている状況。

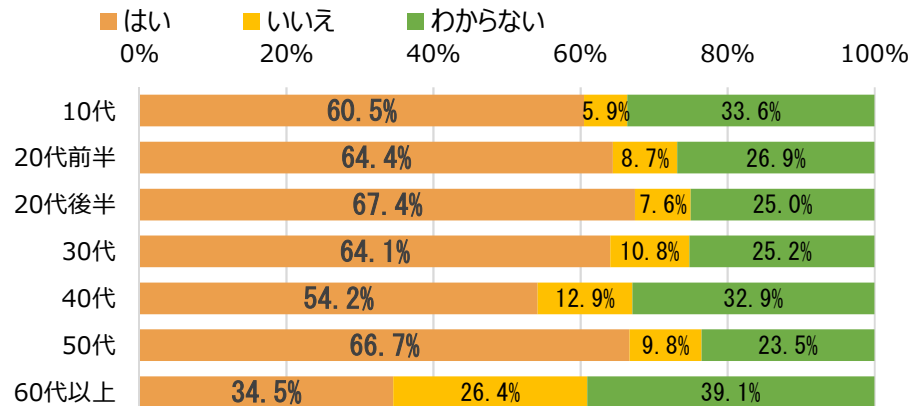
<30歳代の転入超過数の推移 >



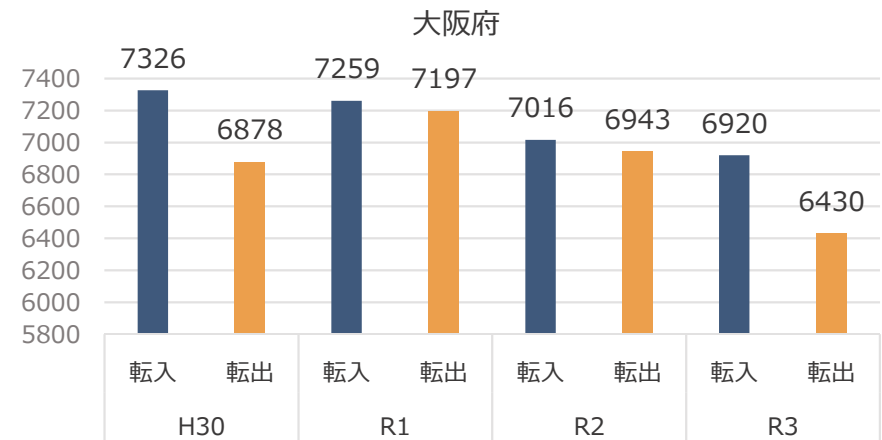
<30歳代の転出入数の推移 >



<兵庫県に戻ってきたいか（年代別） >



出典：兵庫県地域振興課「R3年度転出者アンケート調査」

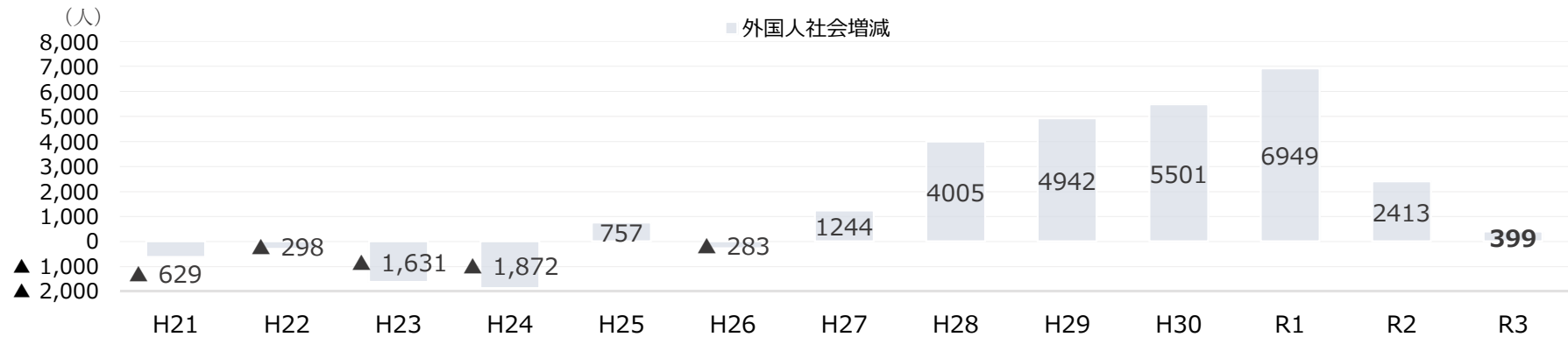


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

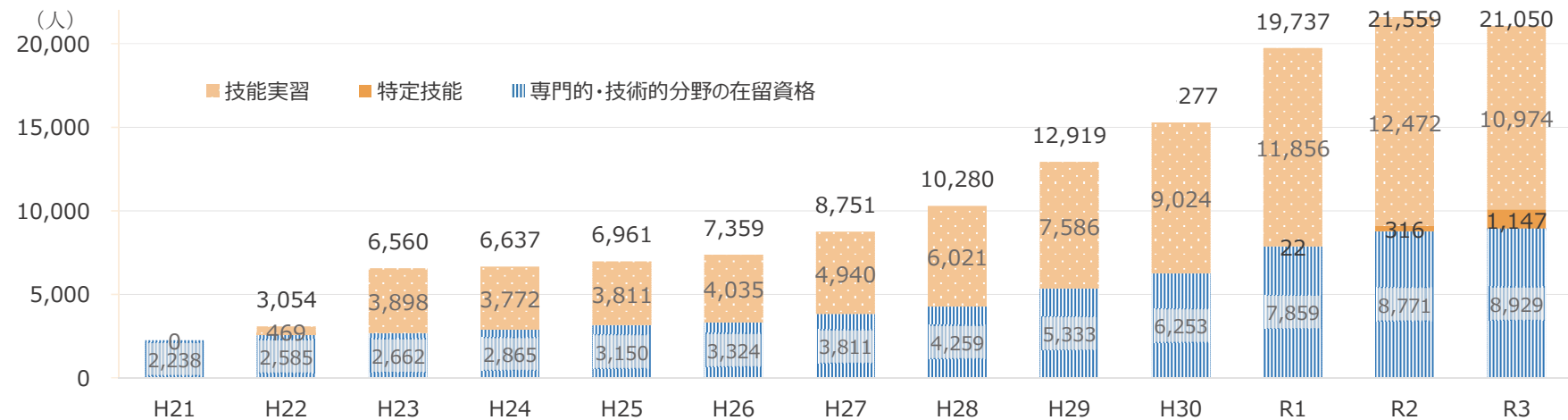
## 2-⑤ 外国人の社会移動

- R2から毎年5,000人の流入増を目指していた外国人の社会移動は、新型コロナウイルスの影響によりR3は399人と激減。
- 外国人の雇用届け出状況は年々増加傾向。新型コロナウイルス禍においても一定の就業者が存在。

<外国人の社会移動の推移>



<外国人材の推移>



出典：厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況

## 3 婚姻・出生

---

### (1) 難しくなる男女の出会い・拍車がかかる婚姻数の下方トレンド

- ▶ 独身者の結婚しない主な理由は「いい相手が見つからない」「経済的不安」。
- ▶ コロナ禍で出会いの機会が減少。多くの人が恋愛のしづらさを感じている。
- ▶ コロナによるステイホームなどを経験し独身者の結婚への関心は高まっている一方で、将来不安も増大。

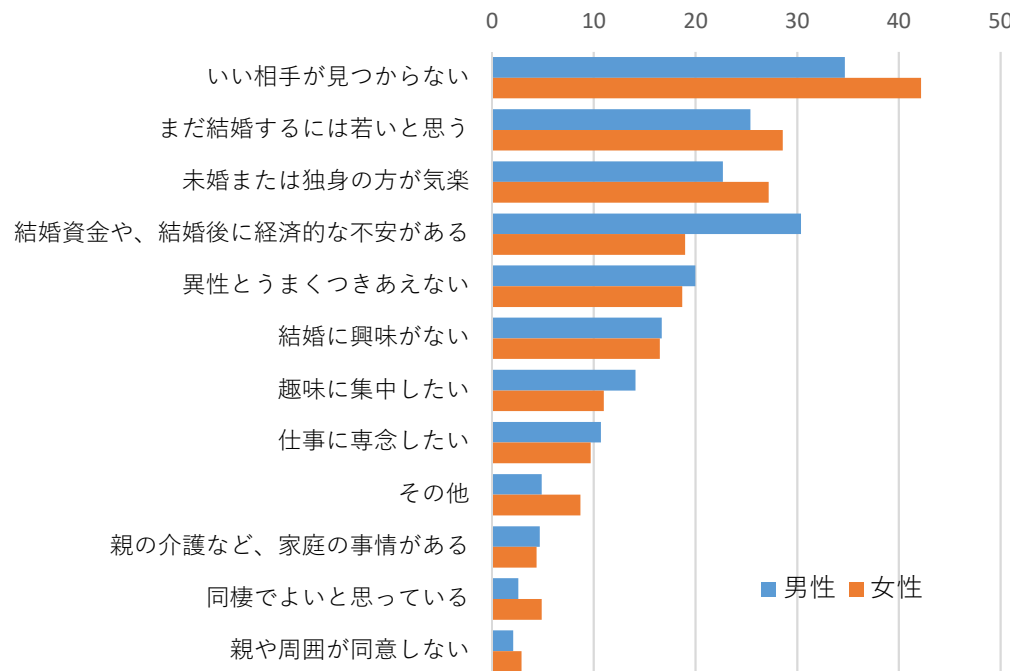
### (2) 出生数の減少継続とコロナ禍による産み控え

- ▶ 本県の合計特殊出生率は、団塊ジュニア世代が適齢期を越し再び低下
- ▶ コロナ禍で妊活や不妊治療を休止・延期したり、妊娠を諦める動き

# 3-① 結婚に対する意識や出会いの機会の減少

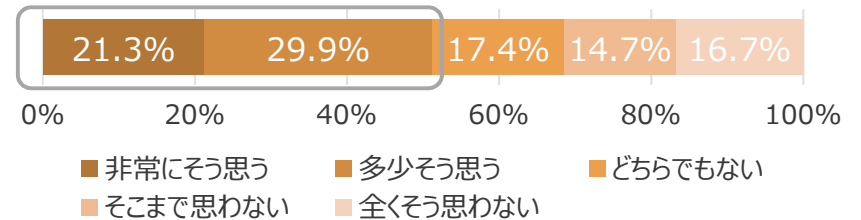
- ▶ 「少子対策・子育て支援に関する県民意識調査（H30）」では、未婚者のうち、結婚願望がある者は60.5%、結婚したくない者は24.1%となっており、結婚に肯定的な考えを持つ人の割合が多い。
- ▶ 結婚しない主な理由は、「いい相手が見つからない」が男女とも1位。男性では「結婚資金や、結婚後に経済的な不安がある」といった経済的な理由が続くが、女性は「まだ結婚するには若い」「独身の方が気楽」が多くなるなど、現状の生活の中で結婚自体を重視していない傾向が伺える。
- ▶ コロナの影響で恋愛のしづらさを感じる人は半数以上おり、その理由としては「出会いの機会の減少」が最も多く挙げられている。

未婚・独身でいる理由

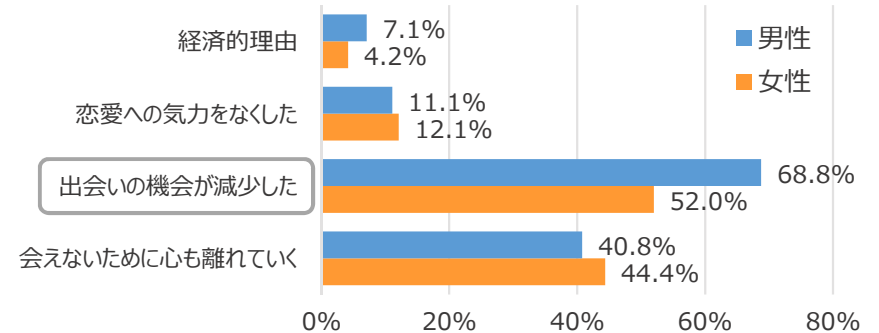


出典：兵庫県「少子対策・子育て支援に関する県民意識調査」（H30）

新型コロナウイルスの影響で恋愛はしにくくなったか



コロナ禍で恋愛活動がしにくいと思う理由

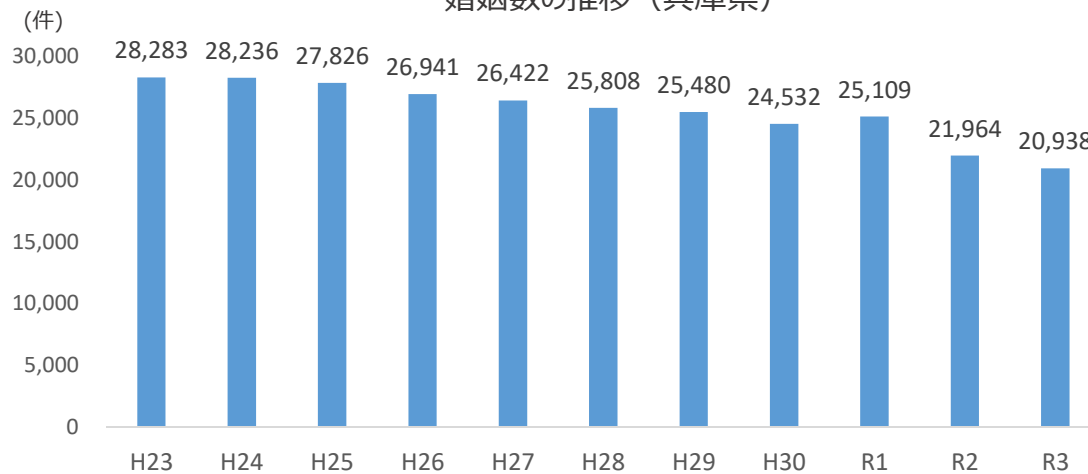


出典：財務省「人口動態と経済・社会の変化に関する研究会」報告書

# 3-② 婚姻数の推移とコロナによる生活意識・行動の変化

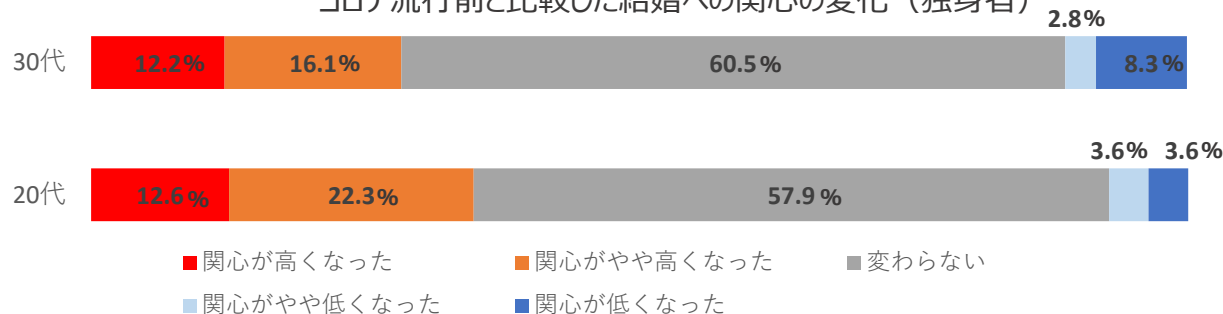
- 本県の婚姻数は、R1年の「令和婚」を除き、減少傾向にあり、R3は20,938件まで減少。
- 20代独身者の34.9%、30代独身者の28.3%がコロナ禍前よりも結婚に対する関心が高まったと回答。
- 一方で、20代、30代ともに将来全般や生活の維持・収入、仕事に対し不安を感じている人が多い。

婚姻数の推移（兵庫県）



出典：兵庫県統計課「人口動態調査」※R2までは確定数、R3は概数

コロナ流行前と比較した結婚への関心の変化（独身者）



コロナによる不安の増加（回答者数/回答対象者数）

	20代	30代
健康	22.5%	28.3%
将来全般	27.3%	24.7%
生活の維持・収入	29.0%	32.8%
仕事	28.0%	24.4%
人間関係・社会との交流	16.9%	15.7%
子どもの育児・教育	8.6%	13.4%
親などの生活の維持・支援	8.0%	22.5%
地球環境・地球規模の課題	5.2%	5.6%
結婚・家庭	15.1%	13.0%
不安はあるが増してはいない	13.6%	15.8%
不安はない	6.9%	5.8%

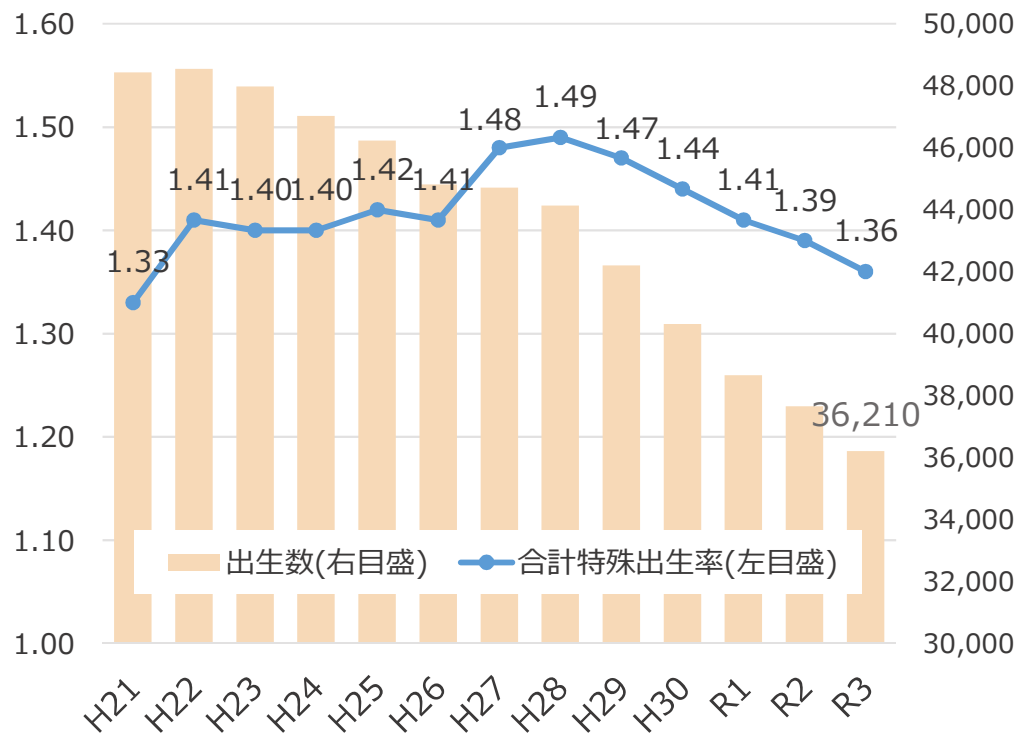
出典：内閣府（2021）「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」個票データより作成

出典：内閣府（2021）「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」個票データより作成

### 3-③ 出生数・出生率の推移

- ▶ 本県の合計特殊出生率は、平成28年（1.49）まで上昇基調にあったが、その後、出生数の減少幅拡大とともに、出生率も低下。戦略目標の1.41の維持は困難に。
- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大により、約4割の人が妊活や不妊治療を延期するなど、妊娠への考えに変化があったと回答。

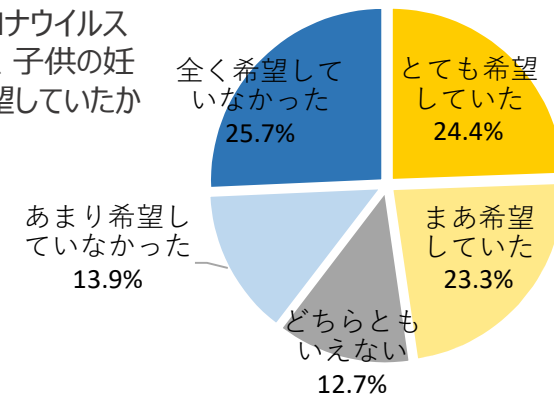
出生数及び合計特殊出生率の推移



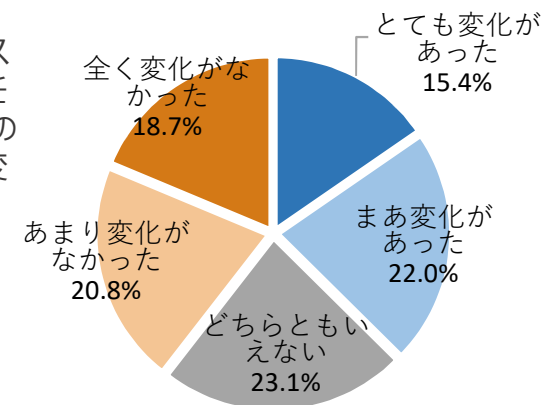
出典 出生数：兵庫県人口推計 出合計特殊出生率：人口動態調査

新型コロナウイルスの妊活や不妊治療への影響

新型コロナウイルス流行前、子供の妊娠を希望していたか



新型コロナウイルス感染拡大により妊活の状況や今後の妊娠への考えに変化があったか



出典：財務省「人口動態と経済・社会の変化に関する研究会」報告書

## 4 地域の人口動態

---

### (1) 多自然地域で加速する自然減・広がる地域間格差

- ▶ 全ての地域で進む自然減。特に高齢化の進む北播磨、西播磨、但馬、丹波、淡路などの減少率が大きく、都市部と地方の格差が顕著に表れている。

### (2) 地方回帰の兆しが覗える社会移動

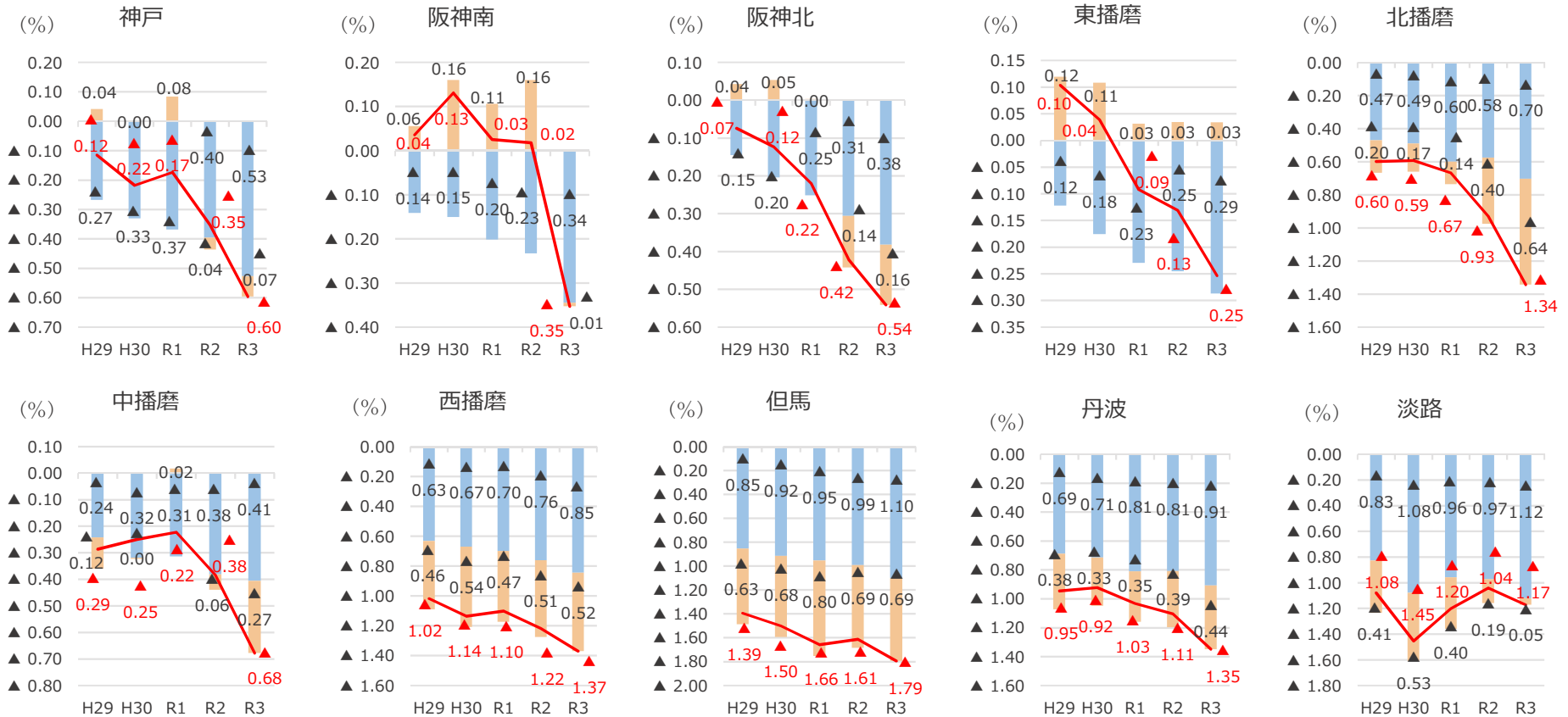
- ▶ 充実した子育て環境を背景に阪神南、東播磨はおおむね転入超過で推移。企業の本社移転や観光資源開発等により淡路は転出超過が改善傾向。まだら模様だが、地方回帰の動きが覗える。

# 4-① 地域の人口動態（人口増減率（自然増減・社会増減））

- ▶ 過去5年間で、県内のすべての地域において死亡数が出生数を上回る自然減となっている。特に、但馬、丹波、淡路では少子高齢化の加速により、他の地域に比べて減少率が高く、また拡大基調にもあることから、地域内の人口減少に拍車がかかっており、地域間格差は拡大の一途。
- ▶ 社会増減率は、阪神南と東播磨ではおおむねプラスで推移している。淡路地域では、島外からの企業進出や移住・定住の取組が進み、H30年からR3にかけて約0.5ポイントの大幅改善。

地域別の人口増減率・社会増減率・自然増減率

■ 自然増減 ■ 社会増減 ■ 純増減





# 5 GDP成長率

---

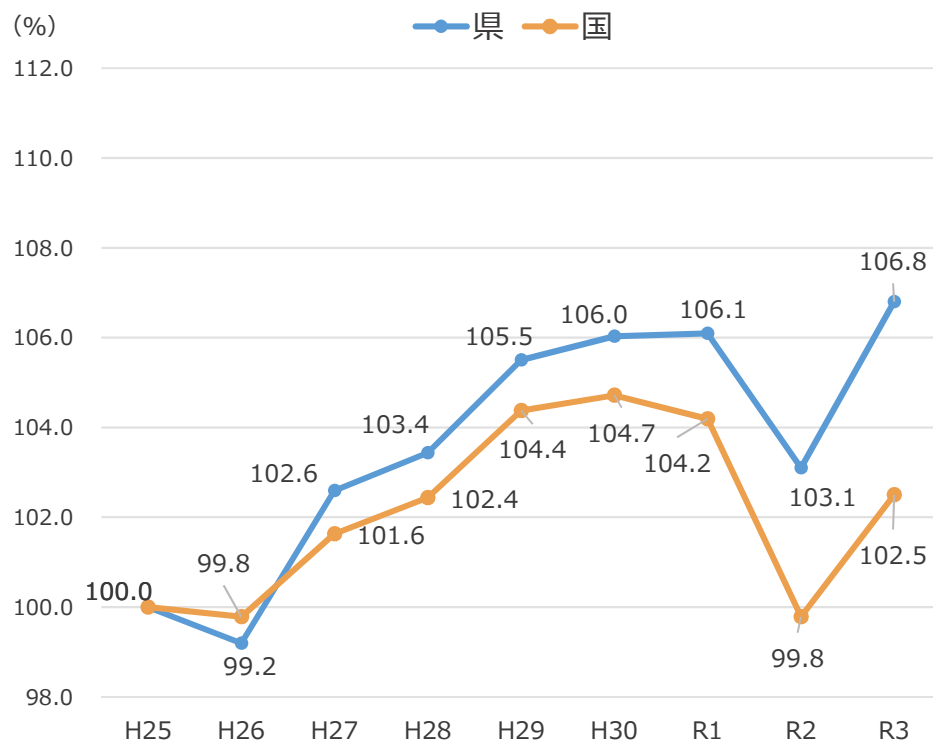
## (1) 国を上回るGDPの伸び・コロナ禍からの回復

- ▶ 本県の一人あたりGDPの伸びは、概ね国を上回って推移。
- ▶ コロナ禍による落ち込みも、国に比べて業種別のウエイトが高い本県製造業が牽引し伸び率はコロナ前の水準に回復

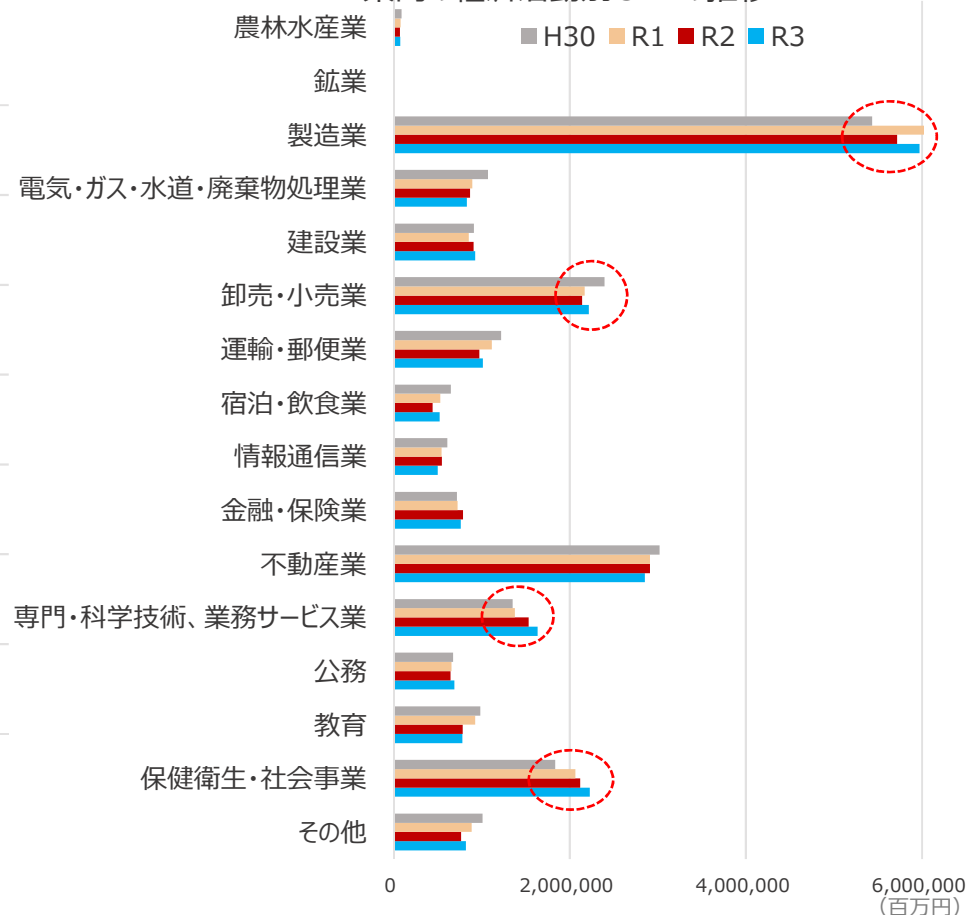
# 5-① 一人あたりのGDPの伸び

- 一人あたりの実質GDPの伸びについて、県は概ね国を上回って推移しており、戦略目標は達成。
- 令和2年度は、コロナ禍で人の移動や経済活動が停滞した影響により、ほとんどの業種でGDPが低下したが、令和3年度は「製造業」「卸売・小売業」で回復した。「保健衛生・社会事業」「専門・科学技術、業務サービス業」は、コロナ禍を通じて増加傾向にある。

一人あたりの実質GDPの伸び



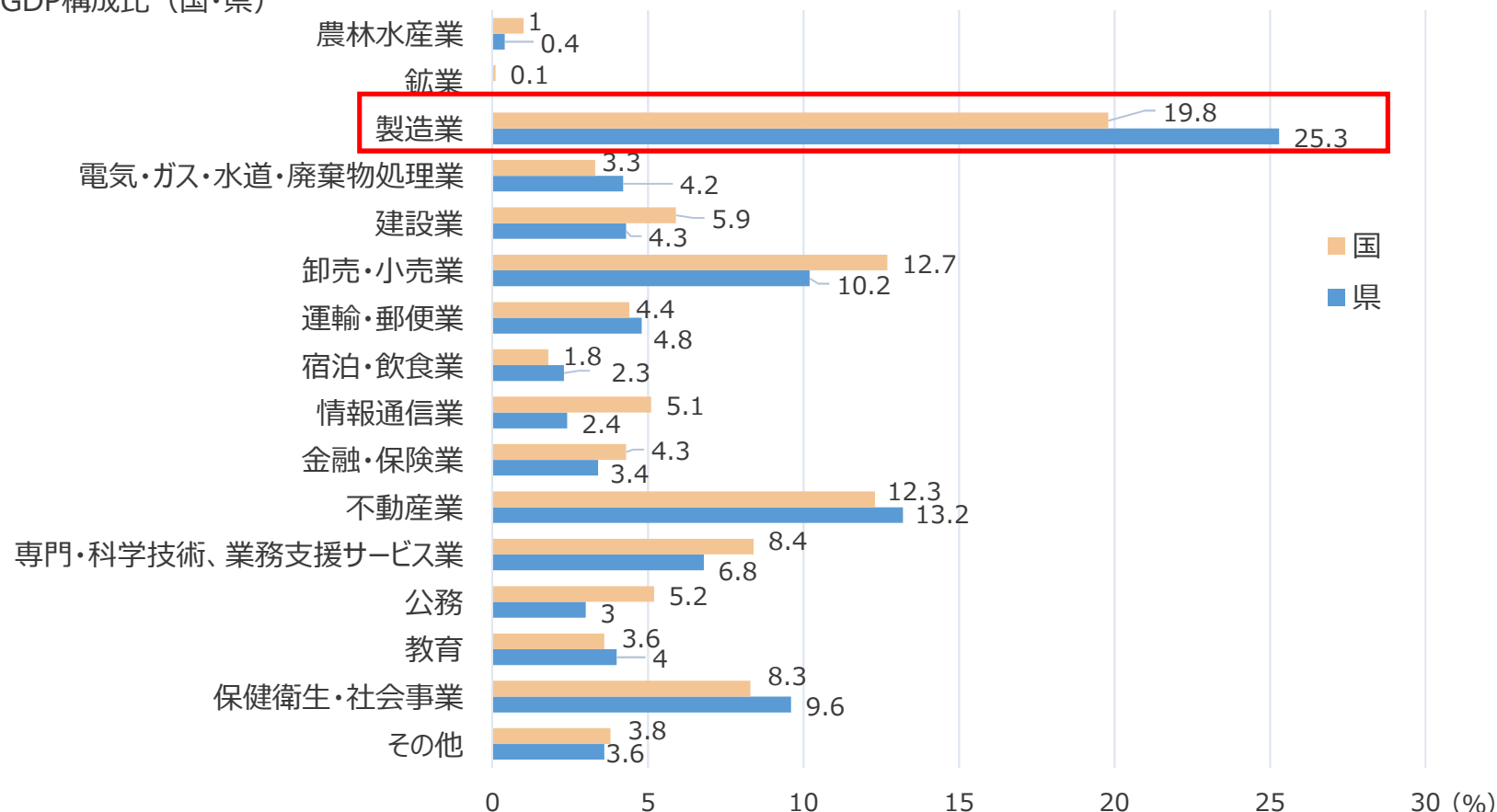
県内の経済活動別GDPの推移



## 5-② 経済活動別のGDP構成比（国との比較）

- 経済活動別のGDP構成比をみると、県は国に比べて製造業が占める割合が特に高く、第2次産業に特化した産業構造であることが、国を上回るGDPの伸びに繋がっている。
- 一方で、県GDPの6割を占める第3次産業は、国と比べて低い構成割合となっていることから、今後は製造業の競争力強化等とあわせて、成長期待分野（水素、AI・IOT等）の創出や第3次産業における生産性向上が不可欠。

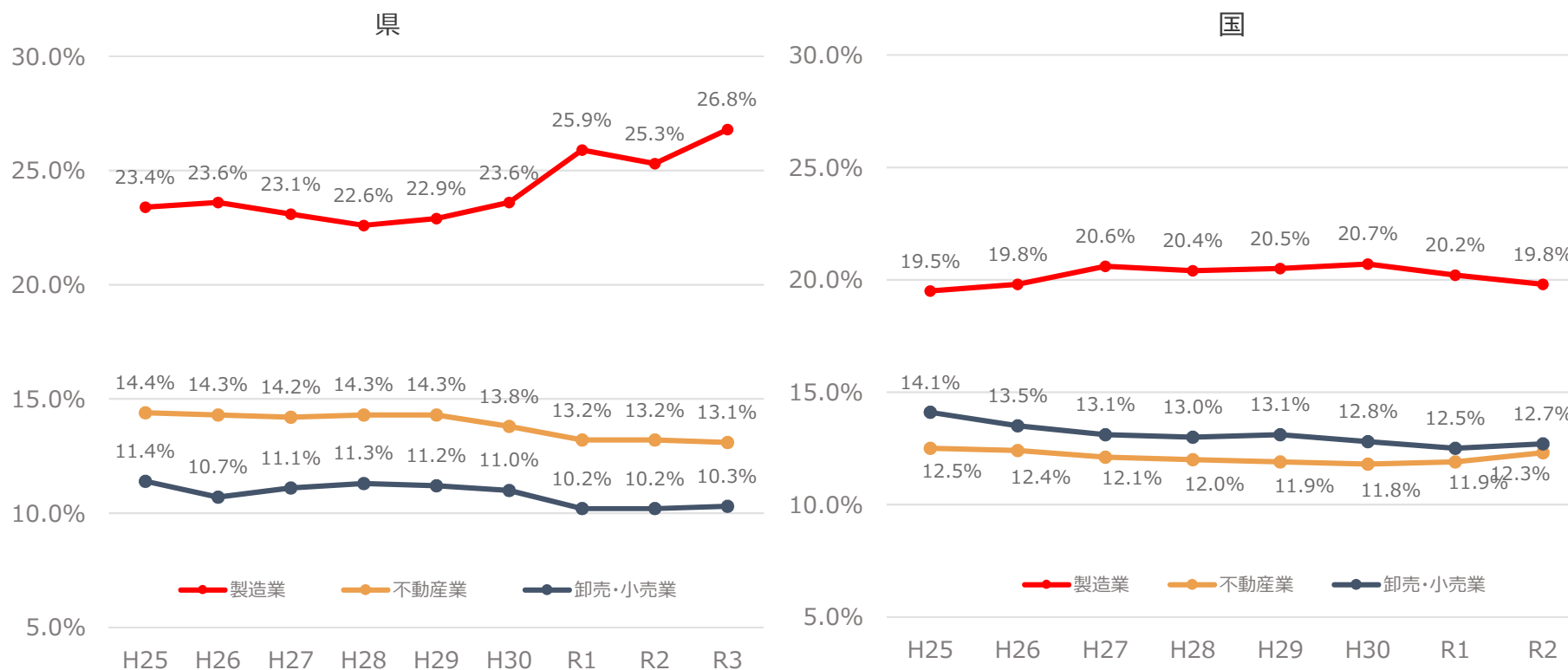
産業別GDP構成比（国・県）



## 5-③ 経済活動別のGDP構成比（年次推移）

- 県のGDP構成割合の高い上位3つの業種のうち、**製造業は増加傾向**にあり、平成25年に比べて、3.4ポイント増加。一方、不動産業と卸売・小売業は、やや減少傾向にあり、平成25年に比べて、それぞれ1.3ポイント、1.1ポイント減少。
- 国のGDP構成割合の高い上位3つの業種においては、ほぼ横ばいで、全体的な構成比に大きな変化はない。

産業別GDP構成比の年次推移（県・国）



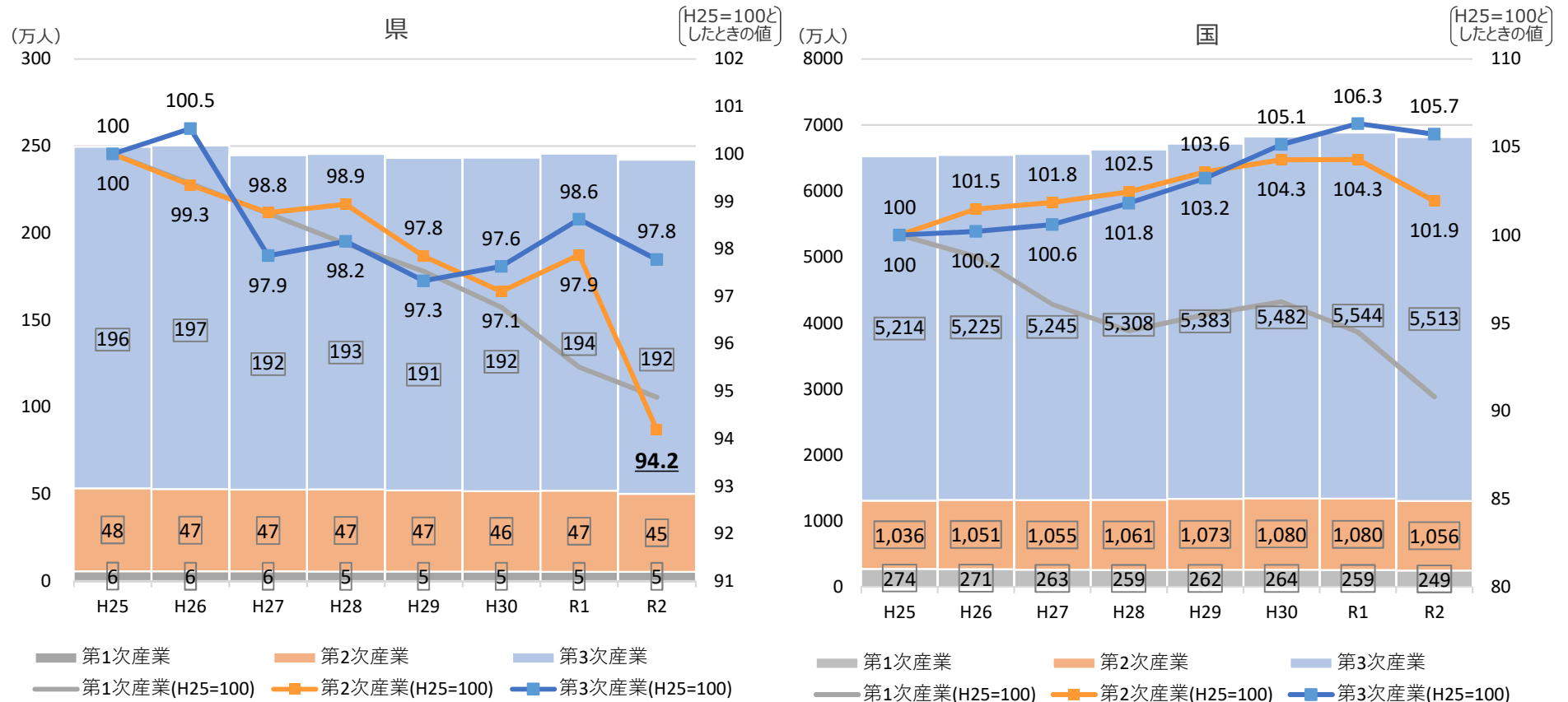
※暦年、名目GDP

出典：内閣府「国民経済計算」、兵庫県「兵庫県民経済計算」

# 5-④ 産業別就業者数（年次推移）

- 県の産業3部門別就業者数では、GDPの伸びが大きい製造業を含む第2次産業の減少が顕著（H25=100としたときR2:94.2）。1人当たりの付加価値は増加しているが、雇用吸収の面では懸念。
- 国では大きく伸びている第3次産業の就業者数についても県は減少トレンド。

産業3部門別就業者数（県・国）



出典：内閣府「国民経済計算」、兵庫県「兵庫県民経済計算」